



全国棚田(千枚田)連絡協議会

# 棚田ライステラス

第73号 2017.11.30  
(年2回発行)

発行/全国棚田(千枚田)連絡協議会

編集/ふるきやらネットワーク

Tel 03-386-8355 東京都小金井市貫井北町1-14-5-101

TEL 042-386-8355 / FAX 042-385-1180

<http://www.yukidaruma.or.jp/tanada/>

## 特集・第23回全国棚田サミット

第23回全国棚田(千枚田)サミット特集  
長崎の棚田百選・だんだん畑十選選定地  
区【地域文化と棚田⑦】長崎県平戸市ほか



鬼木棚田。天気に恵まれた現地見学会。左端の道路奥側では柵とともに某国大統領の案山子がお出迎え(提供:佐野明子)



鬼木棚田3本の谷のうち、開田川の谷を中心に散策



棚田の中でも子どもたちが参加者たちをお出迎え



陶芸の館前で、子どもたちが町の魅力を書いたカードを手渡し



陶郷中尾山での現地見学会。登り窯跡に感嘆の声

(写真協力:波佐見町役場)

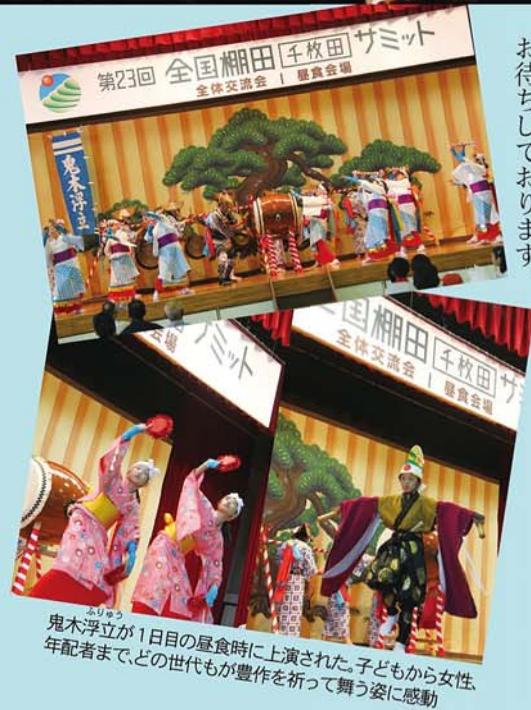
# 第23回全国棚田(千枚田)サミット開催!



長崎県  
波佐見町

2017年9月28日(木)~29日(金)

幼稚園児から大学生まで総勢67名の波佐見児童合唱団の歌声は、会場の心をわしづかみにした



鬼木浮立が1日目の昼食時に上演された。子どもから女性年配者まで、どの世代もが豊作を祈って舞う姿に感動

「棚田は21世紀の社交場」  
→ 社交溢れるサミットの熱を全国へ

波佐見町長  
一瀬政太



今回「人と心がかよいあう陶磁と緑のまち波佐見町」で「第23回全国棚田(千枚田)サミット」を開催いたしましたところ、北は秋田、南は鹿児島の全国各地から約680名ものご参加をいただき、盛会のうちに無事終了することができました。ご参加いただきました皆様に心から感謝し、厚く御礼を申し上げます。

今回のサミットでは「棚田は21世紀の社交場」をテーマとして、基調講演や分科会を通じて意見交換を行い、棚田の価値を改めて共有することができます。また、

全体交流会や現地見学会では、町民総出のおもてなしをさせていただき、多くの交流が生まれ、たくさんの笑顔を見ることができました。まさに「社交場」といえるサミットであったと感じます。

ぜひ参加者の皆様には、今回のサミットの熱を持ち帰つていただき、各地域において棚田の活用や保全の取り組みを進めていただければ、幸いに存じます。

最後になりますが、今回は限られた時間でのご案内ですが、本町を十分に紹介することができませんでしたので、是非とも改めて波佐見町にお越しいただきますよう心よりお待ちしております。

## 開催プログラム

### 9月28日(木)

- ◆オープニング ★波佐見児童合唱団
- ◆開会式
- ◆事例発表「鬼木地区歴史的田園景観調査報告」
- ◆基調講演 講師:三善浩二氏  
演題「土の気持ち」～都市が農村を支える時代へ
- ◆第1分科会「迎えよう！社交あふれる美しい棚田で」  
第2分科会「出掛けよう！社交を求め楽しい棚田へ」
- 棚田女子会「社交性を發揮！おいしい棚田のおもてなし」
- 棚田のまもりびとミーティング
- 首長会議
- 国際分科会「世界の傾斜農地と棚田」
- 特別分科会「農と陶の交わり！食文化を支える波佐見焼」
- ◆全体交流会 ★皿山人形浄瑠璃の上演 ★みんなで皿踊り

### 9月29日(金)

- ◆現地見学会 鬼木棚田・陶郷中尾山・陶芸の館
- ◆分科会のまとめ
- ◆閉会式

「鬼木地区歴史的田園景観調査報告」

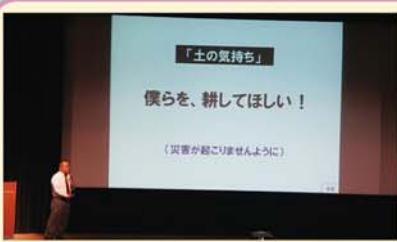
永済 嵩氏



2年間地元に密着した調査から報告。3つの谷に開かれた棚田400枚は集落が混在した美しい景観と解説。裏込め石を詰めない独自の石積み方法や伝統的家屋などを伝えた。

事例発表

基調講演



三善浩二氏

元農林水産省職員の三善氏による講演。農業はいのちを支える産業だとして、ユーモアたっぷりに、農村活性化のポイントをわかりやすく話した。会場は笑いでいっぱいだった。

「土の気持ち」→ 都市が農村を支える時代へ

# 「迎えよう！社交あふれる美しい棚田で」



○コーディネーター：菊森淳文氏（公益財團法人ながさき地域政策研究所 理事長）  
○話題提供者：小森耕太氏（NPO法人山村塾 事務局長）

飯干淳志氏（高千穂ムラたび協議会 会長）  
宮治勇輔氏（NPO法人農家のこせがれネットワーク代表理事）  
原田賢一氏（鬼木棚田協議会役員）

菊森淳文氏（高千穂ムラたび協議会 会長）  
飯干淳志氏（高千穂ムラたび協議会 会長）  
宮治勇輔氏（NPO法人農家のこせがれネットワーク代表理事）  
原田賢一氏（鬼木棚田協議会役員）

「迎えよう！社交あふれる美しい棚田で」をテーマに、若い4人の農業者が自分の農業体験を通じて、棚田の保全や農業のビジネス化、後継者育成等を活発に議論し、有益な知見を得ることができました。

第1に、棚田の保全と活用については、鬼木棚田まつり・保全活動に見られるように、全国の棚田という貴重な財産を守り、活かすことが必要です。このためには、棚田に魅力を感じる交流により多くの人へ来てもらい、定住人口を増やしていくことが必要です。（原田氏）。

第2に、農業のビジネス化（ファミリービジネスの重要性）です。農業の地域資源を活用したビジネス化を図つていいくことが農村と農業の維持・発展に不可欠であり、農業 자체だけでなく、「食べるところ」「泊まるところ」「行ってみたいところ」など、農業の多様化が必要です。農家の「事業承継」は相続とは異なり、承継する側「農家のこせがれ」が親に提案し実績を示すことも必要です。（宮治氏）。

第3に、農業の後継者育成です。中山間地の農業の後継者育成を進めるためには、大規模な農業は望めないので、様々な農業や観光等のビジネスを進めて収入を得るために、多角化・多様化することが必要です。農家の「事業承継」は相続とは異なり、承継する側「農家のこせがれ」が親に提案し実績を示すことも必要です。（宮治氏）。

第4に、地域外人材の導入とネットワーク構築です。中山間地の農業にとって、地域外人材の確保も必要になります、これには、農業研修生・国際交流・地域おこし協力隊等色々な人材導入があり、これらのネットワーク構築も重要です。例えば、国際ボランティア合宿・農業研修生・ワーキングホリデー等の方法があります（小森氏）。

鬼木棚田の魅力を発信し、交流の拡大に努めて、多くの人々から知恵をもらい、消化していくことが、地域の発展につながると感じました。

## 魅力あふれる棚田を交流と定住の場とし後継者育成に

コーディネーター・公益財團法人ながさき地域政策研究所 理事長 菊森淳文

第23回全国棚田サミット第一分科会は、「迎えよう！社交あふれる美しい棚田で」をテーマに、若い4人の農業者が自分の農業体験を通じて、棚田の保全や農業のビジネス化、後継者育成等を活発に議論し、有益な知見を得ることができました。

「迎えよう！社交あふれる美しい棚田で」をテーマに、雇用の受け皿を作ることができました。そのためには、外国人を含め、「レベルの高い」「deepな」農村・農業を見せることが大事という意見も出されました（飯干氏）。また、農家のファミリービジネスを、外部人材を入れて発展させていくことも必要です。

田代さんは、Uターンで戻った岳の棚田環境保全協議会事務局長という立場で、イベントの企画運営や情報発信を積極的に展開し、

地元高校と連携して「棚田Tシャツアート展」を開催。これを通して、棚田には農業以外の楽しみ方アーティスト、エンターテインメントがあることを地元の農家の方々が気づいてくれたといいます。

地域おこし協力隊の藤田さんは、Iターンで、茹田町の11軒20人の集落の棚田に入り、農業体験、味噌づくり、土日の飲食店「天空の力フェ」に取り組んでいます。一見の観光客ではなく、何度も来てくれる応援団を増やしているところ。近隣にある自動車メーカーの会社とタッグアップして、メンタルヘルスケア研修の受け入れにも取り組んでおられました。

繁宮さんは、棚田における栽培・生物調査や棚田オーナー制度にゼミの学生を引き連れて参加し、田植え・草取り・稻刈り等を体験させて、学びの場として活用されています。大学の単位取得などの制度化を検討されています。

最後のパネラー、岡田さんは、行政マシンの立場で、農地保全のため集落営農組織の育成連携を行い、社団法人奥島根弥栄を設立し、お米のブランド化から生産卸し、首都圏等での販売までの地域商社機能づくりに尽力されています。

4人に共通していることは、棚田活性化のアクション起こすコーディネーター人材として外部から地域に入り、「外の視点」をもって、課題解決に取り組んでい

## 外部人材と棚田の活用を！！

コーディネーター・イデアパートナーズ株式会社 代表取締役 井手修身

第2分科会では外部の人材をどう呼び込んで、どのように関わってもらい、地域づくりや生産、保全につなげていくのかを議論しました。

田代さんは、Uターンで戻った岳の棚田環境保全協議会事務局長という立場で、イベントの企画運営や情報発信を積極的に展開し、

地元高校と連携して「棚田Tシャツアート展」を開催。これを通して、棚田には農業以外の楽しみ方アーティスト、エンターテインメントがあることを地元の農家の方々が気づいてくれたといいます。

地域おこし協力隊の藤田さんは、Iターンで、茹田町の11軒20人の集落の棚田に入り、農業体験、味噌づくり、土日の飲食店「天空の力フェ」に取り組んでいます。一見の観光客ではなく、何度も来てくれる応援団を増やしているところ。近隣にある自動車メーカーの会社とタッグアップして、メンタルヘルスケア研修の受け入れにも取り組んでおられました。

波佐見町の鬼木の棚田も素晴らしい景観が維持されて、昨今の秋の案山子まつりにも数千人の方が訪れていましたが、実際には、棚田の集落には、物産の販売としてわずかにお金が落ちる程度です。私は、棚田の楽しみ方を提供し、維持・保全していくコストを受益者に持つてもらおうべきだと考えます。駐車場代を棚田の保全費として、来訪者に負担してもらうことは、理に適っています。棚田の保全・活用の意義を受益者に「共感」してもらい、「コスト」を正当に示していくのも、外部のコーディネーター人材の役割かもしれません。

波佐見町の鬼木の棚田も素晴らしい景観が維持されて、昨今の秋の案山子まつりにも数千人の方が訪れていましたが、実際には、棚田の集落には、物産の販売としてわずかにお金が落ちる程度です。私は、棚田の楽しみ方を提供し、維持・保全していくコストを受益者に持つてもらおうべきだと考えます。駐車場代を棚田の保全費として、来訪者に負担してもらうことは、理に適っています。棚田の保全・活用の意義を受益者に「共感」してもらい、「コスト」を正当に示していくのも、外部のコーディネーター人材の役割かもしれません。

波佐見町の鬼木の棚田も素晴らしい景観が維持されて、昨今の秋の案山子まつりにも数千人の方が訪れていましたが、実際には、棚田の集落には、物産の販売としてわずかにお金が落ちる程度です。私は、棚田の楽しみ方を提供し、維持・保全していくコストを受益者に持つてもらおうべきだと考えます。駐車場代を棚田の保全費として、来訪者に負担してもらうことは、理に適っています。棚田の保全・活用の意義を受益者に「共感」してもらい、「コスト」を正当に示していくのも、外部のコーディネーター人材の役割かもしれません。

波佐見町の鬼木の棚田も素晴らしい景観が維持されて、昨今の秋の案山子まつりにも数千人の方が訪れていましたが、実際には、棚田の集落には、物産の販売としてわずかにお金が落ちる程度です。私は、棚田の楽しみ方を提供し、維持・保全していくコストを受益者に持つてもらおうべきだと考えます。駐車場代を棚田の保全費として、来訪者に負担してもらうことは、理に適っています。棚田の保全・活用の意義を受益者に「共感」してもらい、「コスト」を正当に示していくのも、外部のコーディネーター人材の役割かもしれません。

波佐見町の鬼木の棚田も素晴らしい景観が維持されて、昨今の秋の案山子まつりにも数千人の方が訪れていましたが、実際には、棚田の集落には、物産の販売としてわずかにお金が落ちる程度です。私は、棚田の楽しみ方を提供し、維持・保全していくコストを受益者に持つてもらおうべきだと考えます。駐車場代を棚田の保全費として、来訪者に負担してもらうことは、理に適っています。棚田の保全・活用の意義を受益者に「共感」してもらい、「コスト」を正当に示していくのも、外部のコーディネーター人材の役割かもしれません。



○コーディネーター：井手修身氏（イデアパートナーズ株式会社 代表取締役）  
○話題提供者：田代美由紀氏（岳の棚田環境保全協議会 事務局長）

藤田 純氏（茹田町地域おこし協力隊）  
繁宮悠介氏（長崎総合科学大学 准教授）  
岡田 浩氏（島根県浜田市弥栄支所 産業建設課産業振興係長）

# 「出掛けよう！社交を求め楽しい棚田へ」

# 「社交性を發揮！おいしい棚田のおもてなし」



○コーディネーター：本田 節氏(有限会社ひまわり亭 代表取締役)

○話題提供者：後藤富美子氏(星野村農産加工施設「星の里」利用組合組合長)

大古場美由紀氏(自然体感型観光梅園 たのしい農家お百姓さんオーナー)

楠本俊子氏(波佐見農産物鬼木加工センター責任者)

○農産物に付加価値を付け、稼ぐという視点を持つている。

○壁にぶつかっても周りに応援団がいて、アドバイスをくれる行政や民間のネットワークを持つっている。

○常に活動が進化し続けている。

○研究熱心であり、商品開発について“もつたいない精神”が活かされている。

○農産物に付加価値を付け、稼ぐという視点を持つっている。

直売所、農産加工場、自然体感型観光梅園などで活躍の場を広げている笑顔の素敵な3名の女性パネリストの皆さんに実践方法を学びました。これまで23回の棚田サミットにおいて、初めて女性にスポットを当てた分科会で、多くの参加があり、活発な意見が交わされました。この棚田女子会を通じて、3名に共通するものとして、

棚田女子会は、「棚田で迎える側」の主役となる女性にスポットを当て、井戸端会議といつて昔から女性が集まっておしゃべりすると、何気ない会話からヒントが生まれるという形式の分科会であります。直売所、農産加工場、自然体感型観光梅園などで活躍の場を広げている笑顔の素敵な3名の女性パネリストの皆さんに実践方法を学びました。

これまで23回の棚田サミットにおいて、初めて女性にスポットを当てた分科会で、多くの参加があり、活発な意見が交わされました。この棚田女子会を通じて、3名に共通するものとして、

「コーディネーター・有限会社ひまわり亭 代表取締役 本田 節

ほん だ  
せつ

「コーディネーター・NPO法人棚田ネットワーク代表 早稲田大学名誉教授 中島峰広

なか しまみね ひろ

## 地元の食でもてなす農泊の推進や農村レストランの可能性

「コーディネーター・有限会社ひまわり亭 代表取締役 本田 節

ほん だ  
せつ

「コーディネーター・NPO法人棚田ネットワーク代表 早稲田大学名誉教授 中島峰広

なか しまみね ひろ

が主役という意識を持つことが大事と

いう女性グループからの主張が行われた。

○条件不利を活かした棚田ならではの教育力をいかし、食農教育に力を入れている。

○農産加工品についても商品のストーリーを持ち、ネーミングやラベルについてもプロにアドバイスをもらいながら、商品に付加価値をつけている。例えば、後藤富美子さんの「星野味噌」や「ほし野菜シリーズ」、楠本俊子さんは「鬼の台所シリーズ」の一つである「フリーズドライの具沢山味噌汁」、大古場美由紀さんの「梅シリーズ」等ネーミングも重要な商品の魅力。

○地域の食文化を守り育て繋ぐことの重要性を認識し、コネスコの無形文化遺産になった日本の和食を大切にしていること。

○起業を法人化し、社会的責任を担うということ。まさに棚田女子会の皆さんは男女共同参画社会の実現を目指し、精神的自立、経済的自立を図っていることなどが共通したお話だったと思います。今回の波佐見での全国棚田サミットでは、町民総出のおもてなしであり、初日の交流会は、地元の女性グループの郷土料理と器は波佐見焼が準備されており、女性ならではのおもてなしを感じた交流会でした。そして、翌日には波佐見東小の5年・6年の児童の皆さんは波佐見の慢歩を書いた手作りのリーフレットをくださり、波佐見町丸ごとのおもてなしにとても感動した2日間であります。

今後は農産加工品製造だけではなく、地元の食でもてなす農泊の推進や農村レストランも可能性を秘め、中山間地ならではの交流・対流を活性化させることができると地域の生き残りの方策ではないかと思います。まさに、「棚田は21世紀の社交場」であり、棚田で出会いつて、触れ合つて、分かち合い21世紀に継承するためにも棚田における女性パワーをもっともっと活かしていきましょう。

③イベントの取り組みでは来訪者の数を誇るだけでなく、う仕組みを作る必要という意見があった。

②耕作放棄をなくすための活動では、地権者に代わる担い手には正当な報酬を支払う仕組みを作る必要という意見があつた。

①奈良県明日香村から従来の会費と面積を半分にしたBeginner制度を設けることにより20組の増加があつたという事例が報告された。



○コーディネーター：中島峰広氏(NPO法人棚田ネットワーク代表)

## 「保存会における女性パワー」

## 5回目となる棚田保存会の意見交換会

まもりびとミニティイングは棚田の保全活動を行う団体の意見交換会のことである。5回目になる本年度は近畿以西の保存会に参加を呼び掛け、13団体の参加をえた。これを男性メンバーのA班、女性と地域おこし協力隊の若手メンバーのB班に分け、それぞれが議論を行った。

その進行は、まず各団体が活動内容を紹介した後、これを4つのテーマに整理し、それぞれについて議論を行った。

①棚田オーナー制度では、組数が20組以下の小規模地域と50組以上の大規模地域での取り組む姿勢が論じられ、前者の地元の担い手たちが負担に感ぜず、楽しめる程度の規模が望ましいという意見に対し、後者のオーナー数が多いほど活動が活気づくという主張が行われた。

④棚田米の生産と販売では棚田米の生産組合を立ち上げ、品種の統一・生産管理を行い、県の認証をえて販売価格3万7800円(60キロ)で60トン(10000俵)の棚田米の生産と販売が行われている実績が紹介され、「棚田米を作り、販売したければ唐津市蕨野に学べ」というスローガンが声高に紹介された。そのほか獣害対策の緊急性と保存会の法人化の必要性が強調された。

が主役という意識を持つことが大事という女性グループからの主張が行われた。

# 「中山間地域における扭い手確保について」



○コーディネーター：千賀裕太郎氏(棚田学会会長)  
○話題提供者：川口幹子氏(一般社団法人MIT専務理事)

全体として、農山村への若者移住について、非常に明るい展望を共有することことができたとともに、そのために行うべき支援策についても、多くの経験から学ぶことができ、成果の大きさがわかった。首長会議となつた。

首長会議は、20市町村の首長らが参加し、話題提供者として一般社団法人MIT専務理事の川口幹子氏、アドバイザーとして農林水産省地域振興課長の松本雅夫氏の臨席を得て、「地域おこし協力隊」の定住状況等に関する議論が行われた。参加首長から「事例紹介シート（地域おこし協力隊の定住者26件、非定住者12件）」の提出があり、それぞれ興味深い事例が紹介され、質疑・議論が活発に行われた。

発表があつた20市町村の地域おこし協力隊員の定住率が、いずれも70%前後という高率との報告があつた。プロ野球では「3割打者」といえば大打者だが、それをはるかに上回る数値である。さらに「村内に限らず県内での定住を含めると80%が定着」(長野県小谷村)との実績も披

露され、一同大いに励まされたのである。議論によつて、この高い定着率がもたらされた要因への理解が進んだ。全体として来訪隊員の意欲・資質の高さが指摘されるとともに、受け入れ地域の自治体が、隊員の応募動機などを十分に把握して、隊員の適切な配置を行い、さらにきめ細かな支援体制のあるところが効果を挙げている。

また、住宅確保支援に始まり、各種資格・技術取得への支援、起業の費用補助や各種便宜供与など、地域でのきめ細かな定住支援行動が、十分に功を奏していることも明らかになつた。

他方で、定住に至らなかつた事例の紹介もあつた。その要因をいくつか挙げれば、協力隊員の希望（業務内容など）と地域実態とのミスマッチ、地域の行政に放任されて協力隊が不信感をいだいた、自立して生活ができる就職先が見つからなかつた、定住後の起業の見通しが立たなかつた、起業しても離島のため駆け出せなかつた、希望するような住宅確保ができなかつたなどである。

コーディネーター：棚田学会会長、東京農工大学名誉教授

千賀裕太郎  
せんが ゆうたろう

## 「地域おこし協力隊の定住事例を基に考える」

# 棚田を含む世界の傾斜農地での課題などを共有

コーディネーター：東京大学新領域創成科学研究所教授、棚田学会副会長

山路永司  
やまじ えいじ

棚田サミットで初めての分科会です。

イタリアのブドウ畑、ペルーのジャガイモ畑など、育てる作物は違いますが、山

の斜面を農地として活用している国々が多數あり、日本の棚田と同様の問題（耕作放棄等）を抱えています。国際テラス

農地景観会議（ITLA）の活動や、棚田を含む世界の傾斜農地の顕彰についての報告を伺い、傾斜農地での取り組みや

課題を共有することにしました。

馬場範雪さんは、「ITLAとの出会い」と題し、ペルーでの傾斜農地について、その構造・水利・栽培などについて、多くの写真を用いて説明いただきました。

有名なマチュピチュ遺跡の石垣も、最上段の神殿を支えるために作られ、下の方

は農地だつたということに驚きました。

金子玲大さんは、「伝統を越える！農地の石積みの新しい価値」と題し、フランスやイタリアにおける空石積みに対する考え方と継承の取り組みを紹介いただきました。

近年、空石積みを再評価する動きが活発になつてゐることでした。

山岡和純さんは、「農村景観の顕彰／日本棚田百選から世界／日本農業遺産まで」と題し、2002年に創設された世界

農業遺産システム(GIAHS)および2016年に発足した日本農業遺産の仕組みと認定地区を紹介いただき、また日本の棚田百選や棚田学会会員が果たしてきた役割

を説明いただきました。その後、参加者一人一人から自己紹介をいただき、棚田との関わりや思いを伺いました。その際には、質疑応答も含めました。多くの参加者が関心を持った空石積みは、その美しさや生態系保全の役割が大きいにも拘らず、災害復旧時にコンクリートブロックに置き換えられてきたことを共有し、残すためにはどうすればよいかを話し合いました。

国際分科会への参加者は約23名でした。来年度もぜひ開催したいこと、絞り込んだテーマとしたいこと、外国からの参加者を迎えること、そして、できれば英語で行いたいことを確認し、分科会を開きました。



○コーディネーター：山路永司氏(東京大学新領域創成科学研究所教授)  
○話題提供者：馬場範雪氏(棚田学会評議員 佐賀市副市長)  
金子玲大氏(上勝町地域おこし協力隊 石積み学校)  
山岡和純氏(棚田学会理事 国際農林水産業研究センター)  
安井一臣氏(棚田学会理事・研究委員長)

## 「世界の傾斜農地と棚田」

# 農と陶の交わり！

## 食文化を支える波佐見焼

波佐見町役場

農林課

久保田

亘

会場内外も盛況！



「はちゃまる」も応援！



「手ろくろ」の工程です。職人の手馴れた手つきでお椀や花びんが次々と作られていました。一見簡単そうに作られていたが、熟練の技術が必要です。



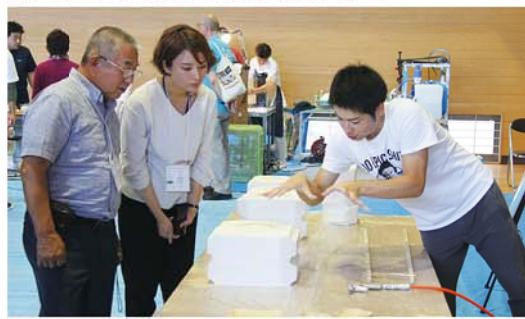
「鉛込み」の工程です。液状の陶土を石膏型に流し込み成形する製法です。参加者は珍しい作業工程を興味深く見学されていました。



「石膏型原型づくり」の工程です。やきもの形の基本となる石膏型は繊密な作業により作られます。回転する石膏が様々な道具により成形されました。



「機械ろくろ」の工程です。回転する石膏型の上に陶土をのせ、コテを押しつけて形作られます。絶妙な力加減で、お椀が次々と作られていました。



「圧力鉛込み」の工程です。陶土を石膏型に圧力をかけて注入し形作られます。型から生地を剥がす作業の体験が行われていました。



「絵付け」の工程です。素焼きした生地に筆を使って様々な模様が描かれています。ゴム製の判子を使った絵付け体験も行われました。

特別分科会「農と陶の交わり！」食文化を支える波佐見焼では、波佐見焼の製造工程の紹介が職人の実演により行われました。やきもの作りを見ることが初めてだった60名の参加者は興味深く熱心に見学されていました。実演中は職人が作業の説明をしたり、参加者からの質問に答えたりしていましたが、コテコテの「波佐見弁」で話されるので、同行しているスタッフの通訳が必要だったようで、参加者は独特の言葉使いにも驚かれていました。

普段何気なく使っているやきものの奥深さを感じることができた見学会となつたようでした。

僕は、自分たちが棚田を作っていることの紹介と、農業のプロの方の思いや考えを聞こうという思いで参加した。1日目はいろいろな方の話を聞いたが、三善さんの話があもしろくてわかりやすかった。三善さんは農業の大切さを教えてくれた。2日目の町の見学も楽しかった。

VOICES



僕が、鬼木棚田で行われた棚田サミットで印象に残ったことは2つ。1つ目は、棚田はとても美しいということ。2つ目は、分科会で棚田でみんなで作ったTシャツを並べる。このような活動をしている人がいることに、びっくりしました。

3年・谷中大使



第2分科会で私がいちばん魅力的だなと思ったのが「棚田Tシャツアート展」だ。棚田にTシャツを飾るだけのものだが、規模も大きく、これならたくさんの人が集まりそうだなと思った。途中、町あこしの話からお金の話題に変わったことは不満に思うが、バネリストの方々やたくさん農家のさんの「米農家の人口を増やしたい」という意見が聞けてよかったです。

3年・曾我太紀



「はちゃまる」も応援！



福岡県北九州市から北九州子ども村中学校のみんな。棚田がテーマの自分たちの研究をパネル展示し、大好評

参加した棚田女子会は、棚田で迎えて、お客様をもてなすことについて話し合いました。私が一番印象に残っているのは「見た目が悪くてそのまま出荷できないものは、加工して販売する」といったことです。できるだけ捨てるものを減らそうと工夫することは大切だと思いました。次の日に行った鬼木棚田はとても広くてきれいでした。こんなに広い棚田をつくるのはたいへんそうなので、すごいなと思いました。

1年・仮屋崎麗菜

とにかく印象に残っているのは、鬼木棚田です。展望台では、一面に黄緑色の田んぼが広がっていました。こんなに広い棚田を作り上げるのは大変な苦労だったと思います。棚田の石積みはコンクリート化が進んでいますが、歴史がある石積みを守ろうとする動きもあります。農業にむずかしい気象や地形のペルーでも、その地域に合う作物や方法を見つけて育てています。機械も少ないため、昔の日本のように牛を使っています。国は違っても知恵や悩みは共通していると思いました。

1年・吉武ちさ

特に現地見学会では、鬼木棚田のすばらしい景色を見ることができます。上から見ると収穫時期の稲が光っていてとてもきれいでいた。特別分科会では、波佐見焼の体験をさせていただき、楽しかったです。また機会があれば、ぜひ行きたいです。

2年・内田美祥人

開会式からおもしろく興味深い話を聞かせてもらいました。そして、鬼木棚田に行なったとき、休憩所で配られたおもちが本当にいいしかったです。来年は、残念ながら小谷村なので行けませんが、また機会があれば、ぜひ行きたいです。

2年・曾我太紀

特に現地見学会では、鬼木棚田のすばらしい景色を見ることができます。上から見ると収穫時期の稲が光っていてとてもきれいでいた。特別分科会では、波佐見焼の体験をさせていただき、楽しかったです。また機会があったら参加したいです。

1年・坂元葉奈

特別分科会が心に残りました。そこでは、波佐見焼ができるようにしてできるかを見学しさまざまな体験もさせていただきましたが、どれもむずかしく、職人の慣れた手つきに見入ってしまいました。現地見学会では、いろいろなかかしがありおもしろかったです。初体験がたくさんある2日間でした。

2年・中島優真

はじめて棚田サミットに行って、印象が大きく変わった。ただ話を聞いていただけと思っていたが、陶芸体験をして、鬼木棚田に行って、おもしろい話をたくさん聞けてとても楽しかった。お米を作っている人は、一度は絶対に行くべきだと思った。

2年・純田創志

鬼木棚田はかかしがあって、おもしろかかしがたくさんありました。鬼木棚田を展望台から見た景色はとてもきれいで、こんなに広い棚田を見たのは初めてだったので、すごく思い出に残りました。

1年・曾我心咲



広島大学教育学部  
第四類人間生活系コース4年  
**棚橋ほのみさん**

今回はじめて棚田サミットに参加しました。棚田サミットには棚田に何らかのつながりを持っている、棚田が好きな全国の仲間が集まっていました。その方達の取り組みについてお話を伺ったり現地を視察したりして様々な刺激を受けました。多世代、他地域の人達が集まって、直面する農村の課題を考えるのは、視野が広がり一緒に頑張る仲間が増えたとてもいい機会だなと思います。鬼木棚田のかかしのユーモアにも心が癒されました。



佐賀県農山漁村課  
むらづくり事業担当  
**大崎美咲さん**



高知県 捩原町町長  
**矢野富夫さん** (写真中央)



長崎県波佐見町で行われた棚田サミットに参加しました。分科会の棚田女子会ではパネリストの方々の視点から見た中山間地域の様々な活性化方法を聞くことができました。また、鬼木の棚田は山が深く水が豊富な場所にあるため、ため池が必要ないということを知りとても驚きました。他にも棚田を活用した町おこしや経営の仕方など様々な話を聞くことができ、とても勉強になりました。2日目は、実際に鬼木の棚田を散策しました。ずっと実をつけている稻穂と沢山の稲穂が目に入りとても印象的でした。また、2日間を通じ棚田について、新しい知識を得ることが出来ました。今後の活動でも活かしていきたいと思います。

## VOICES

別府大学食物栄養科学部  
発酵食品学科1年  
**角町のぞみさん**

夢米棚田プロジェクト

別府大学食物栄養科学部発酵食品学科2年  
**河野共喜さん**

一田舎、いなか、いい仲！一鬼木棚田の地区は田舎にあり、交通の便も限られていますが、思いやりある皆の仲に心引かれる棚田サミットでした。地域の絆のように固い石積み、鬼木棚田ではカカシのお出迎え、波佐見焼の伝統工芸との出会い、全てが感動の連続でした。国際分科会では、世界の棚田という視点を変えて見てみると、実は日本と似ている技術もあることを発見することができました。棚田には、夢米(ゆめ)が溢れだしていることに想いを巡らし、来年も是非参加したいです。二十歳という記念に貴重な体験をありがとうございます！

そして私は、別府大学で「夢米棚田プロジェクト」という活動を行っています。大分農業文化公園の棚田でヒノヒカリと香り米、七島蘭を栽培し、11月の大学祭でもお米を販売しました。大分香りの博物館では、香り米を使用した『夢香米焼酎』を好評販売中で、来年には2%の香り米を使用した焼酎も販売予定です。七島蘭については、香気成分とその利用法について研究中ですので、ご興味ある方はご連絡下さい。今年度は～アクティブラーニング、世界農業遺産について知ってもらうために～と題し、学生主体で田染の庄や田深町の視察を致しました。子どもたちや外国人にいかにして日本の棚田や世界農業遺産を認知してもらうかが、課題となっています。

私の専攻は発酵食品ですが、実は、棚田と発酵は密接な関係にあります。米の原料となる麹から味噌・醤油・日本酒などが作られます。日本の調味料を支え、食文化を繋げている発酵。棚田と食、一度注目してみてはいかがでしょうか。

鬼木棚田は、棚田の記念碑と展望所から全体が見え、きちんと整備されていました。内成より耕作条件が良いです。内成は県や市の支援も少ないので、波佐見町の鬼木棚田は、町をあげて全体が支援しているようでした。



**内成活性化協議会副会長 梶原辰夫さん**

今回、お隣の佐賀県から参加しました。私は佐賀県の棚田の担当をしており、棚田地域の方々とも交流させてもらっています。皆さん、イノシシ被害や担い手不足の中、棚田を守るために大変な苦労をされていると思うのですが、いつも楽しそうに自分たちの棚田のことをお話しします。今回のサミットでも多くの方のお話を聞き、楽しく棚田を守っていくことが人を惹きつけると学びました。今後も地域の方々と一緒に楽しく棚田の広報活動を行い、棚田を守っていきたいと思います！

内成活性化協議会副会長  
**佐藤博幸さん** (写真右)

参加者約700人という中、大分県・別府市・内成合わせて11名だったので寂しく感じました。鬼木棚田の視察では、お店(直売所)もあり、棚田も綺麗に整備されており、良かったです。内成の棚田の良さも改めて感じました。

内成自治区区長  
**大野征一さん** (写真中央)



みんなで皿踊り！ 醤油用の小皿を2枚ずつ持つ、カスタネットのように鳴らしながら踊る

壇上では、地元で約300年間受け継がれている皿山形淨瑠璃の妙技も！



交流会場  
も  
熱氣炸裂

参議院議員の進藤かねひこ氏  
も応援に駆けつけてくれ、交  
流会場に登場

佐賀県  
佐賀市副市長  
**馬場範雪さん**

今回、波佐見町での全国棚田サミットを大いに堪能いたしました。波佐見児童合唱団の歌声に魅せられ、講演者の三善浩二氏の笑いの渦にいつしか巻き込まれ……。その後の国際分科会では、私も三善氏モードで南米ペルーの傾斜地農業の話題を提供し、有意義な時間をみなさんと過ごせました。波佐見町は、佐賀県武雄市や嬉野市に隣接しています。わが佐賀市にもステキな棚田があります。ぜひ、佐賀市の棚田へも足をお運び下さい。

# 3つの谷に広がる壮大な棚田に圧倒

福岡県うきは市 棚田まなび隊

菊地稚奈

福岡県うきは市で棚田耕作の活動にかかわり4年目、初めて棚田サミットに参加しました。

送られてきたパンフレットを見て、1日目の講演、分科会と共に、2日の現地見学会をとても楽しみにしていました。最初に訪れた陶芸の館では、小学生たちが社会科見学に来ていると思っていたら、突然一人の女の子が駆け寄ってきて、手書きのカードを渡してくれました。思いがけない可愛い歓迎にとても感激しました。

次に訪れた鬼木の棚田では、前日の事例発表で3つの谷の合流地点に広がる棚田であるという説明を伺つて写真からもその姿をイメージしていたものの、実際に見るとこちらに迫りくるような想像以上の壮大な風景に圧倒されました。3つの傾斜に広がる棚田は、位置を変えることによってさまざまな景観を見せてくれます。棚田と集落が入り

混じる風景も、そこでの嘗みが感じられ、心に染み入りました。

コンテストの案山子たちはどれも力作で、ユーモアと芸術性に富んでおり、うつかり話しかけそうになるものもあります。時事を扱つたものも多く、日頃からニュースに目を光らせ、楽しいことを考えて作られているのでしょうか。出品は176点にも及ぶそうで、数の多さからも、鬼木棚田が地元に愛されていることがわかりました。

波佐見焼の窯元を訪問させていただくこともでき、知識の豊富なガイドさんのおかげで大変充実した見学となりました。町一体となっての歓迎を受け、ただただ恐縮するばかりでしたが、地元の皆さんとの連携の強さ、郷土への深い愛情を感じられる2日間でした。心温まるおもてなしを本当にありがとうございました。



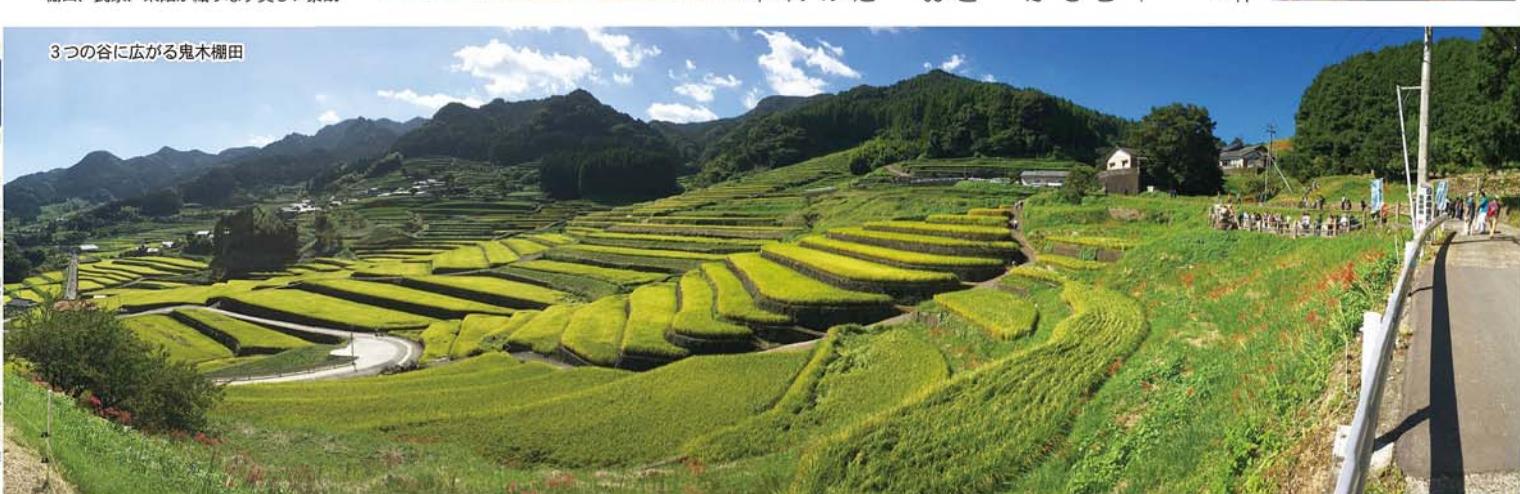
冷たいお茶とお餅があるよ、と呼びかけてくれるおじさんも実はカカシ



ガイドさんのおかげで見る物の価値が変わってきます



棚田、民家、茶畑が織りなす美しい景観



3つの谷に広がる鬼木棚田



陶芸の館では小学生それぞれが町の魅力を書いたウェルカムカードでおもてなし



石積みの修繕までしてくださる案山子(提供:佐野明子)



カカシからは時勢や風刺など、「今」が見えてくる!



いえいえ、この方はカカシじゃなくて地元の88歳のおじいちゃん、川添成夫さん！

地元のおもてなしは、おいしい波佐見のお茶に香り高いよもぎ餅！

いえいえ、この方はカカシじゃなくて地元の88歳のおじいちゃん、川添成夫さん！

地元のおもてなしは、おいしい波佐見のお茶に香り高いよもぎ餅！

# 波佐見

株式会社アサノ大成基礎エンジニアリング  
事業推進本部 技術開発室

佐野明子

棚田サミットへの参加は今回初めてである。まず最初に空港から会場へ向かうバスの中で、ガイドを務めてくださったのは波佐見町役場の方であった。ガイドは棚田以外にも及び、「現在、波佐見焼の原料は天草で採れます。」と聞こえた。

早々に浮かぶ疑問。長崎県に上陸するのも初めての山梨県民は地図を開いた。波佐

見町から原料の採取地まで約100kmある。波佐見焼の歴史は400年とのことであるが、400年前から天草産の原料を使っていた筈はない。波佐見焼もっと近くに原料の産地があつたに違いない。

長浜春夫・松井和典(1982)「早岐地域の地質」の地質図を見てみたが、波佐見町内に陶土となりそうな地層が見当たらぬ。地質図幅の説明書を読んでみたところ、ようやく答えに辿り着いた。そこには「又、三股付近における有田流紋岩類の風化帯はよい陶石の原料となり、本地域の重要な鉱物の一つかつた」と書かれていた。焼き物の原料は陶土だとばかり思っていたが、陶石という物があったのだ。知らないといつのは恐ろしい。

説明書を読んだ後に地質図を見返してみたら、原石山の場所がひと目で分かつた。松岳流紋岩と呼ばれる岩体である。

疑問が解消したところで中尾郷を散策する。棚田サミットの現地見学会である。散策していると、堀にもきれいな焼き物が施されている。そればかりではなく食器として使えない焼き物が堀の骨材として街造りに活用されていた。焼き物の町ではよくある光景なのだろうか。食器の陶房にも美術品の陶房にも案内してくださり、普段は接することのできない貴重な品々を見せていただいた。自分よりも若い方が生き生きと物づくりに励んでおられるのを拝見して、身が引き締まる。作業の手を止めて見学者に対応をしてくださった陶房の方々に感謝しつつ、中尾郷を後にした。いつか原石山も含め、ゆっくり時間を取つて巡りたい。

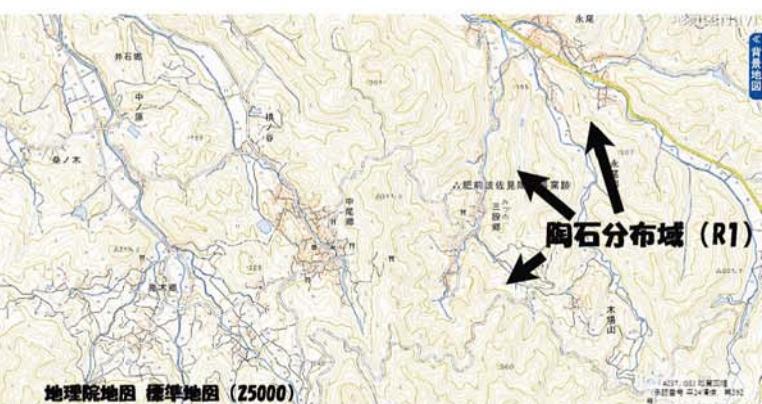


- 1: 右: 焼成前の生地。左: 焼成後
- 2: 炭酸?バリウム。胃のレントゲン撮影に用いるものでは勿論ない
- 3: 陶房では、秒単位から分単位の時間管理が必要なかく見学者対応をしてくださった
- 4: 堀や橋の欄干にも波佐見焼が彩を添える
- 5: なかせ陶房の皆様。ミニギャラリーやシアターを準備してくださった
- 6: 商品として世に出なかった品が壁の一部としてリユースされている



GSJシームレス地質図(詳細)  
AIST, GSJ地質図帳(承認番号平24情他、第392号)

中尾郷と三股郷の地質図。波佐見焼の原料が三股郷から採取されていた時代もある



地理院地図 標準地図(25000)

AIST, GSJ地質図帳(承認番号平24情他、第392号)

中尾郷と三股郷の地形図。中央からやや左寄りに中尾郷がある



おもてなしテントの女性陣。朝早くからよもぎ餅を作ってくれた

全体交流会や棚田見学会場でも名司ぶりを見せたのは、この方！

光玉陶苑さんで熱心に話を聞く参加者

日本の伝統工芸の中  
老舗の陶

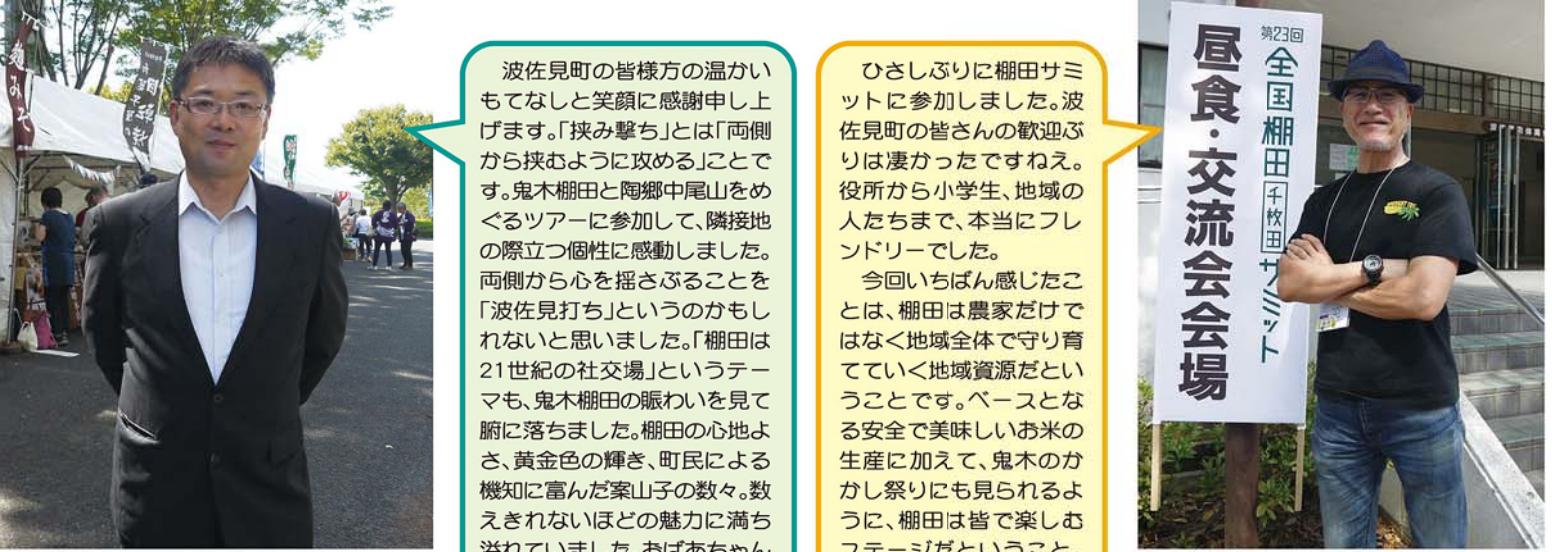
鬼木棚田協議会 原田さんも現場でおもてなし



参加者によもぎ餅を配ってくれるのは、鬼木の子どもたち

中尾山では、陶器のブローチのガチャガチャも

4月になくなつたばあちゃん(母)がモデルというユーモアあふれるカカシ。作者の渋江耕三さんは「まるで母を見ているようです」とニッコリ！(水道を引き込んでの飲料コーナーにもなっている！)



十日町市産業観光部 農林課  
課長補佐  
みつる

小林 充さん  
(新潟県十日町市)



VOICES

波佐見町の皆様方の温かい  
もてなしと笑顔に感謝申し上  
げます。「挟み撃ち」とは「両側  
から挟むように攻める」ことで  
す。鬼木棚田と陶郷中尾山をめ  
ぐるツアーに参加して、隣接地  
の際立つ個性に感動しました。  
両側から心を揺さぶることを  
「波佐見打ち」というのかもし  
れないと思いました。「棚田は  
21世紀の社交場」というテー  
マも、鬼木棚田の賑わいを見て  
腑に落ちました。棚田の心地よ  
さ、黄金色の輝き、町民による  
機知に富んだ案山子の数々。数  
えきれないほどの魅力に満ち  
溢れていきました。あばあちゃん  
と孫の案山子最高でした！

これからも、全国の皆で日本  
の美しき棚田や地方を盛り立て  
てまいりましょう。

ひさしぶりに棚田サミットに参  
加しました。波佐見町の皆さん  
の歓迎ぶりは凄かったですねえ。  
役所から小学生、地域の人たちまで、本当にフレ  
ンドリーでした。

今回いちばん感じたこ  
とは、棚田は農家だけでは  
なく地域全体で守り育ててい  
く地域資源だとい  
うことです。ベースとな  
る安全で美味しいお米の  
生産に加えて、鬼木のか  
かし祭りにも見られるよ  
うに、棚田は皆で楽しむ  
ステージだということ。  
そして、そのステージは  
全国ひとつとして同じ風  
景はないというところに  
興味をそそられます。



第23回  
全国棚田  
千枚田  
サミット

長岡市地域振興戦略部

地域づくりアドバイザー

うえ の ゆうじ

上野裕治さん

(新潟県長岡市)

長門市経済観光部 農林課  
(山口県長門市)  
山村猛志さん(写真右から3番目)



山口県長門市農林課のみなさん

長崎県波佐見町の鬼木棚田。たくさんのかかしに出迎えていただき、  
遠目で見た時は、本物かと間違うくらいリアルでした。また、基調講演  
での綾小路きみまろ調を交えた三善氏のお話を聞くことができ、土の  
気持ちと妻の気持ちがわかってきたような気がします。

第25回大会は、山口県長門市の引受で開催されます。向津具半島はま  
わり田んぼみな棚田、焼き鳥日本一の長門、CNNでも紹介された、元乃  
隅稻荷神社もあります。ぜひお越しください。



平成30年  
9月8日(土)～  
9日(日)



## 第24回全国棚田サミットは長野県小谷村で!

おたりむら 小谷村役場観光振興課

山田久志

平成30年は長野県小谷村で開催されることとなります。

長野県の北西部、1998年冬季オリンピックで金メダル獲得したジャンプ競技が開  
催された白馬村の北に位置します。

この小谷村、面積の約90%が森林であり、急峻な地形に覆われた山間地域であります。また冬期間は2m以上の積雪に覆われる日本でも有数の豪雪地帯であります。

平成30年にサミット開催にあたり、山あいの地形と過酷な気候で行われている農  
業や、そこで生活する人々の活動を参加者の皆様にお伝えしたいと考えています。山  
間地水田や水路の管理、災害に対する苦労など、小谷村の農家の声を発信し、今後の  
課題なども訴えるようなサミットを計画しています。

また中山間地域直接支払事業の導入を契機に、基盤整備事業、ソバの振興、集落営  
農活動など、小谷村の農業政策について発表し、参加者に理解して頂けるような機会  
にしていきたいと考えています。

北アルプスの麓・自然の宝庫でもある「小谷村」。棚田だけでなく身近にある大自然  
も体感できるようなメニューも計画しておりますので、多くの皆様のご来村をお待ち  
しております。



# 全国棚田(千枚田)連絡協議会会長が交代します

平成29年度全国棚田(千枚田)連絡協議会の会長に就任いたしました新潟県佐渡市長の三浦基裕と申します。皆様のご協力を賜りながら連携を密にし、協議会の発展に努めて参りたいと思つてはいるので、よろしくお願ひいたします。

さて、昨年離島では初の開催となつた第22回全国棚田(千枚田)サミットに続き、本年9月28日・29日に「鬼木棚田」に代表される長崎県波佐見町で、第23回全国棚田(千枚田)サミットが開催されました。実行委員会会长の一瀬町長をはじめ波佐見町の皆様には心温まるおもてなしをいただき、盛会のうちに終了できましたことに深く感謝を申し上げます。

このサミットにおいて、全国各地の参加者との情報交換や交流を通して、メインテーマである棚田が「社交場」として重要な場所であることを再認識できたものと思います。しかしながら、棚田を取り巻く環境は依然厳しく、担い手の問題をはじめ、鳥獣被害、来年に迫った米政策の見直しなど多くの課題を抱えています。食糧生産だけではない、棚田が育む様々な価値を守り引継いでいくうえで、当協議会の果たす役割は今後益々大きくなると感じています。国への具体的な働きかけを中心として、産地だけではなく、棚田を日本全体で支えあう仕組みを構築するための取組みを推進していくことが必要と考えています。

当協議会の結束を更に強くするとともに、協議会会員の拡大など協議会の発展に向けて、引き続き皆様方のご支援ご協力を賜りますようお願い申しあげます。

平成28年度全国棚田(千枚田)



佐賀県玄海町 町長 岸本英雄



連絡協議会の会長を仰せつかり、微力ながらその任を務めさせていただきました。1年間会員の皆様には様々なかたちでご支援・ご協力を賜りましたことに、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

さて、当協議会も、昨年は離島では初めてとなります全国棚田(千枚田)サミットを新潟県佐渡市で開催することができました。開催に際し、新潟県や佐渡市の皆様には大変なご苦労があつたことと存じます。佐渡市長をはじめ実行委員会、関係者の皆様にはあらためて心より御礼申し上げます。

佐渡市は、日本では8地域となります「世界農業遺産」の認定を受けており、昨年の全国棚田サミットでは「U30棚田サミット」を初めて開催し、若者が主体となり棚田の持続・継続について活発な意見が交わされ、非常に有意義なものとなりました。

また、昨年も当協議会は、東京ビッグサイトにおいて「エコプロダクツ」に出展し、全国棚田サミット及び棚田保全のPR活動をすることができました。

本年2月には、農林水産省大臣へ要望書を提出するとともに、農水省地域振興課等との意見交換を行い、中山間地域の現状を伝え、環境支払という観点から補助の見直しをお願いしました。

同日、古川衆議院議員へ表敬訪問し要望書を提出した後、棚田振興議員連盟及び全国棚田サミット等について意見交換を行いました。

今後につきましても、新たな会長となります三浦佐渡市長のもと、更なる活動の推進を図られ、棚田地域の様々な魅力にスポットを当てながら、発展的な活動により、農村地域活性化への機運がなお一層高まりますことを願つております。

## 会長に就任します

新潟県佐渡市 市長 三浦基裕



9月28日・29日に長崎県波佐見町で開催された「第23回全国棚田(千枚田)サミット」は盛会のうちに無事終了し、波佐見町実行委員会や波佐見町の皆様、関係機関の皆様、大変ありがとうございました。

景観が素晴らしい「鬼木棚田」では、イノシシを中心とした鳥獣被害対策のため電気柵を設置しているのを見出し、佐渡には無い大変な苦労があることを痛感しました。

また、現地見学会において、鬼木棚田でのおもてなしや小學生からいただいたメッセージカードは大変心が温まるものであり、波佐見町民の人柄を感じました。本当にありがとうございました。

さて、サミット開会式に先立ち、当協議会の総会を開催し、第26回(2020年)サミット開催地が山形県大蔵村に正式決定しました。

来年の第24回サミットは9月8日(土)・9日(日)に長野県小谷村で開催されます。年に一度、全国各地の皆様と交流できる機会ですので、多くの方々から参加いただけサミットを盛り上げてもらいたいと思います。

## ●事務局ニュース

事務局・新潟県佐渡市からのお知らせ

### 棚田の保全・中山間地域活性化のための全国組織 全国棚田(千枚田)連絡協議会

お申し込み・お問い合わせは協議会事務局  
佐渡市 産業観光部農業政策課

〒952-1292 新潟県佐渡市千種232番地

TEL:(0259)63-5117

FAX:(0259)63-5127

ホームページ:バックナンバーをすべて掲載

全国棚田(千枚田)連絡協議会

検索

## 編集後記

長崎県波佐見町での全国棚田サミットは、災害の多い昨今の不安を吹き飛ばすかのような、明るさに満ちた棚田サミットでした。波佐見町のみなみなさまのユーモアやおもてなし精神に溢れていました。心までほぐれたのはわたしだけではないでしょう。本当にありがとうございました。

今年度の「棚田ライステラス」は、棚田サミット開催時にあわせ、遅めの発行となりましたが、引き続きご愛読いただければ幸いです。次号は春の到来とともにお届けします。みなさまの寄稿、掲載希望情報などございましたら遠慮なくお知らせください。 石井里津子

# 会員募集中

新しく会員になったみなさま

<個人賛助会員>岡田洋民氏(埼玉県深谷市)

中谷芳尚氏(和歌山県有田川町)

# 長崎の棚田百選・だんだん畑

## 十選選定地区

長崎県では、平成20年度に引き続き2回目の全国棚田サミット開催となりました。平成20年度の全国棚田サミット開催を契機として県では、「長崎県のだんだん畑十選」の認定、「長崎の農業・農村写真コンテスト」を開催しました。さらに「日本の棚田百選」県内選定地区の皆さんの研修、情報交換の場として長崎県棚田保全代表者会議の開催やイベント等の支援を行ない、県民の棚田やだんだん畑に対する理解を深めるとともに、選定地域の保全、活性化を図っています。

### 大中尾棚田



#### 子どもたちの未来へと伝え残したい自然の文化遺産

角力灘に沈む夕日を眺めながらのサンセットドライブが人気の国道202号線を少し入った山の斜面に石積の棚田が広がる稲作地域です。近くには、道の駅「夕陽が丘そとめ」や出津文化村、遠藤周作文学館などの見どころも多くあります。また、棚田オーナー制度にも取り組んでおり、オーナーは年会費3万円で、田植えや稻刈り、脱穀・精米を体験できるほか30kgの棚田米と地元の特産品が貰えます。

### 谷木棚田



#### 先人たちの知恵と努力により築かれた棚田

島原半島の南部に位置し、有明海を見下ろす東側の斜面に棚田が開かれています。山を開き、石を積み上げて作った田んぼの造形美と山々が作り出す自然美が調和した景観は秀逸です。田んぼは、地域を守る急傾斜地の防災機能の役割も果たしています。また、米の裏作としてじゃがいもなどが作付けされており、耕作放棄地が比較的少なく、営農意欲が高い元気な農村地域です。

### 日向の棚田



#### のどかな農村風景がそのまま残った懐かしさ漂う日本の原風景

佐賀県との県境、川棚町の北東部に位置し、古くから靈験の山として知られる虚空蔵山の登山道入り口に広がる石積みが美しい棚田です。石木川の清流と深い緑の山々が調和した日向の棚田の風景は、心をやさしく癒してくれます。特に松ノ塔農村公園からの眺望はオススメです。また、秋に開催される木場棚田だんだんまつりは、イベントが盛りだくさんで来場者から好評です。

### 清水棚田



#### 自然石が巧みに積み上げられた見事な棚田の景観に感動!

雲仙山系から湧き出た清らかな水と石積の棚田は千々石町岳地区の自慢。清水川上流では渓流の女王「ヤマメ」が養殖されています。県道128号線沿いにある棚田展望台からは岳地区の全景が見渡せます。また、平成21年から長崎市内の調理師専門学校「川島学園」と町内の青年農業者団体「千々石町農業研究会」が一緒に田植えや草取り、稻刈りを行っています。『食』に携わる者同士の交流の場としても、清水棚田は注目を集めています。

### 宮摺



#### 茂木びわは、今も生産量日本一!!

江戸末期、長崎の出島から唐びわの種を持ち帰り、育てたのが茂木びわの発祥。以来、橋湾に面した丘陵地を中心に広く栽培され、「日本一のびわ産地」として茂木の名は全国に知られています。中でも橋湾の遠景とびわ畠が織りなす宮摺地区的風景は特に美しく有名です。



全国棚田サミットにおいて「長崎県の棚田百選・だんだん畑十選」地区、「長崎の農業・農村写真コンテスト」の紹介を行いました

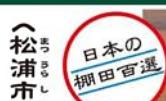
### 鬼木棚田



#### のどかな山間から人々の楽しい笑い声が聞こえてくる元気な里

春は桜陶祭、秋は秋陶めぐりで賑わうやきものの里、中尾山にほど近いエリアに広がる美しい棚田は、中尾山と並ぶもうひとつの観光スポットとして多くの人々が訪れています。毎年9月下旬に開催される鬼木棚田まつりは、その年の世情を反映したユーモラスな案山子など、たくさんの創作案山子が田んぼに並び秋の風物詩として大人気。また、棚田まつりでは当日参加OK!のイベントも好評です。

### 土谷棚田



#### 玄界灘の夕景をバックに広がる一枚の絵画のような景観

海岸から標高120メートルにかけて、先人が築いた石積の棚田が広がる静かな農村地帯。玄界灘に沈む夕日と海に浮かぶ島々とのコントラストが美しく、絶好のカメラスポットとして有名です。田んぼは荒らされることもなく、人々の暮らしの中に棚田のある風景が溶け込んでいます。海を隔てた遥か向こうには稲作が伝えられた中国大陸があり、元寇の際には、この地も激戦地となり多くの戦死者が出たと伝えられています。

# 椎の木川

(雲仙市南串山町)

だんだん畑  
十選



## 急傾斜地に開墾された先人たちの苦労がにじむ石積のだんだん畑

遠くに諫早市飯盛町のだんだん畑や、青々とした天草の島々を望み、橘湾に面した山肌の緑と耕作され整然と並ぶ雄大な農地とが造る自然の絶景は、未来の世代へと受け継いでいきたい素晴らしい財産。この地域は、次世代へ引き継ぐ農業の担い手が多く、農閑期には農地の雑草取り、小石拾い、石積の修繕・補修、排水路の清掃などをを行なながら、石積のだんだん畑の美しい景観が維持保全されています。

# 津波貝

(南島原市加津佐町)

だんだん畑  
十選



## 「本朝孝子伝」24孝の1人である安永安次の心を受け継ぐ里

山並みと調和した美しい石積の景観や数多くの生物が生息する環境は、都市住民の憩いと安らぎの場所として適しています。地域グループによる農作業体験やだんだん畑での収穫祭などのグリーンツーリズム活動にも積極的で、今後は民泊の取組等が計画されています。さらに、地域にまつわる民話の伝承など、伝統文化も大切に受け継がれています。

# 木場

(西彼杵郡長与町)

だんだん畑  
十選



## 琴ノ尾岳の裾野に広がる自然豊かなみかんの産地

長与ダムの上流に位置する琴ノ尾岳の裾野に広がる自然豊かな美しい景観をもつ長与みかんの産地。恒常的な干害対策として、畑地灌がい施設が整備され、みかんの安定生産、品質向上に役立っています。また、平成19年度には農用地利用改善団体「夢の郷長与木場」が立ち上げられ、地域で協力し合いながら、中山間地域等直接支払制度に取り組むなど地域活性化に向けた取り組みが行われています。

# 岡北

(西彼杵郡長与町)

だんだん畑  
十選



## 青い大村湾に緑が映えるのどかな景色が広がるみかんの里

大村湾に突き出した半島のなだらかな丘を覆うように広がる緑のみかん畑。四季折々の美しい景色を見せてくれるこのエリアはドライブスポットとして人気のコースです。自然石を積み上げただんだん畑の景観は未来へと受け継ぎたい価値ある財産です。また、ホタルの観察会など自然を舞台にした都市住民との交流活動が行われてあり、今後の地域活性化に向けた更なる取り組みが期待されています。

# 坂本

(東彼杵郡東彼杵町)

だんだん畑  
十選



## 新緑のお茶と石積が織りなす曲線美

幕末の女傑大浦慶が「彼杵のお茶」をはじめ九州のお茶を世界へ輸出した当時、東彼杵町は大村藩内最大のお茶の生産地。その起源は、遣隋使、遣唐使の時代にまでさかのほり、15世紀に「釜炒り茶」の製法が伝えられて以降生産が盛んになり、大村藩主の奨励で「彼杵茶」産地の基礎がつくられました。お茶の新緑と石積が織りなす縞模様の美しい風景は、訪れる人を魅了します。また、大村藩の御用浮立であつた坂本浮立は小学生からお年寄りまで地区をあげて保存に取り組み、今日まで受け継がれています。

# 勝負越

(佐世保市針尾東町)

だんだん畑  
十選



## 西海の絶景をつくる丘陵地に広がるみかんの里

うず潮で知られる伊ノ浦瀬戸に面した斜面に広がるみかん畑。大村湾や歴史ある針尾無線塔とみかん畑の緑が織りなす風景は、この地区を象徴するものです。糖度が高く品質が良いみかんの産地として、農業が盛んな地域です。九州自然歩道長崎県ルートが近くを通るなど、今後、都市部住民との交流による地域活性化に向けた取り組みも期待されています。

# 飯盛南部

(諫早市飯盛町)

だんだん畑  
十選



## 広い大地を直線に伸びる整備されたじゃがいも畑の景観は町のシンボル

東に雲仙岳、南東に橘湾を見渡す美しい風景が広がる飯盛南部地区は、じゃがいも、にんじんの産地として有名。整備されたほ場の造形美もまた、国道251号線沿いの象徴的な風景として、このルートを走るドライバーには馴染みです。植栽されたグランドカバープランツ(イワダレソウ)がだんだん畑の法面を覆い、春から夏にかけては白や黄色のかわいい花を咲かせています。

# 野川内

(諫早市多良見町)

だんだん畑  
十選



## 太陽の陽射しとやさしい風が育む甘くて瑞々しい伊木力ブランド

山肌を覆うみかん畑の緑が、大村湾の青い海に映え、どこかで美しい風景を見せてくれます。伊木力みかんの里として、古くからみかん農家が多く、農地の維持保全活動を活発に取り組んでいる元気な農村です。シーズンになるとみかんがたわわに実り、深い緑の景色にオレンジ色の点が散りばめられます。多良見町から長与町へ向かう県道33号線は、天正遭欽少年使節千々石ミゲルの墓所などの史跡巡りや琴ノ尾岳へのドライブコースとして人気です。

# 上崎山

(五島市上崎山町)

だんだん畑  
十選



## 福江島のシンボル 鬼岳の麓に広がる緑の畑は景觀彩る自然の裾模様

緑の芝生に覆われた鬼岳の山頂から望む大小さまざまな畑と五島灘の美しい風景は、上崎山地区の自慢のひとつ。島外からの観光はもちろん、ハイキングや釣り、遠足、散策、サイクリング、タヤケマラソンなどなど、多数のイベントで活用され、市民の憩いの場所となっています。また、平安時代から続く郷土芸能も伝承されていて、新しいものと伝統が融合・調和し、ゆったりとした雰囲気を醸し出しています。

# 辺木・小竹木

(雲仙市南串山町)

だんだん畑  
十選



## 斜面に広がる雄大な農地を空と海とが包み込む絵画のような風景

山頂まで続く31ヘクタールの急傾斜地に約800枚の畑が並ぶ畑作地帯。耕作された雄大な農地と、海と空とが織りなす美しい自然の風景はこの地区の自慢のひとつ。JA青年部によるじゃがいもの産地直送など、活発な営農が展開されていて、未来に向けて発展が大いに期待される元気な農村です。

# 潜伏キリシタンが生き抜いた棚田の里・春日

かす が  
長崎県平戸市

2018年7月に世界遺産登録を目指す棚田の里がある。

「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成資産の一つ、長崎県平戸市春日集落だ。見事な石積みの棚田が、平戸市最高峰、536mの安満岳の麓に広がっている。2010年に広がっている。2010年には国的重要文化的景観にも選定された。そして今、世界遺産登録への期待が高まるなか、現地を取材した。

わざか20戸ほどの春日集落

春日集落は、安満岳と海に挟



全体で約20haの棚田は、安満岳から海へ流れる2本の谷川を軸にして拓かれている。標高が高いところで150m

まれたダイナミックな棚田約20haを抱える。その力強い風景と

は裏腹に、20戸ほどの人々が静かな佇まいを見せていている。人々の記憶の中にある最大戸数で28戸。

平戸島の西海岸に位置する春

日集落では、稻作だけでなく、海藻類など海の幸にも恵まれ、里山

里海の世界が集落を支えてきた。

棚田がいつ開田されたのかは定

かではない。少なくとも16世紀

の文献に集落名があり、17世紀、江戸時代初期の絵図には集落が描かれてある。そして1866年

年に描かれた絵図「春日牧図」には、水田など今と変わらぬ集

落の姿が見てとれるという。

「春日」の名が、歴史の中に登場するのが、1561年だ。それは、ルイス・デ・アルメイダ修道士の書簡の中、である(※)。

「春日」と称する別のキリスト教徒が、春日に到着すると、我らが訪問することがすでに知られており、十字架へ続く道は聖体の行列を待ち受けた。

春日へ向かった。(中略)タ

ンの集落へ向かった。

春日には、この地に教会が建てられた。「その教会は清潔で莊厳な場所にあり、海と陸の眺望がはなはだ美しい」と。

ここはかつて集落すべてがキリシタンという棚田の里だった。

16世紀にキリシタンの里に

戦国時代、日本で展開した「キリシタン時代」。平戸はまさに、その時代の洗礼を受けた場所の一つだ。当時、南蛮貿易の利益や宣教師が持ち込んだ西洋医学、音楽、美術など新しい文化も影響し、人々はキリシタンの教えに導かれていった。

ご存知のように、日本にキリスト教を伝えたのはフランシスコ・ザビエルだ。ザビエル鹿児島上陸1549年。1550年には平戸を訪れ、布教をはじめた。その後の1558年、春日集落も全戸が改宗。先にキリスト教に改宗した領主・籠手田安経の領地内すべてにおいて、一斉改宗がなされたのである。

そして時代はキリスト禁教、信者弾圧へと向かっていく。キリスト教に改宗した領主・籠手田安経の領地内すべてにおいて、一斉改宗がなされたのである。

春日集落も全戸が改宗。先にキリスト教に改宗した領主・籠手田安経の領地内すべてにおいて、一斉改宗がなされたのである。

春日集落も全戸が改宗。先にキリスト教に改宗した領主・籠手田安経の領地内すべてにおいて、一斉改宗がなされたのである。

春日の暮らしは生月島とともに

現在の春日の風景は、このようないい1年を繰り返してきた人々の生活から作り出されました

取りから、春日ではかつて生月島に米や炭、薪などを売つて、雑魚や肥を肥料としてもらうことで棚田を維持してきたことがわかります。

リシタン信仰を継続できたのは、この地で安定して食べ続けることができた。それが大きいといいます。里山からとれる薪などの資源や、広大な棚田で米が作られたこと、そしてそれを消費する島の漁業を中心とした経済圏の存在が大きいと思います。もし、人口増加に集落の生産性が追いつかねば、移住という選択をせねばなりません。聞き取りから、春日ではかつて生月島に米や炭、薪などを売つて、雑魚や肥を肥料としてもらうことで棚田を維持してきたことがあります。

春日は、目の前の生月島へ食料や燃料を供給することで長らく生計を立ててきた。生月島は漁業が盛んで、現在も「かくれキリシタン」の信仰が残る島だ。1991年に生月大橋がかかるまでは、船。しかも春日の人たちは、船を使って漕ぐ小さな船で生月島に出向いた。

昭和2年から昭和12年生まれの母さん方5人から話を聞くことができた。



上：話を聞かせてくれた80～90歳の女性陣。後列は綾香和枝さん、前列左から前田セイさん、寺田千鶴さん、寺田ウテさん、前田道さん

右上：集落内の道端に建つ三界万靈塔。潜伏時代、この集落が仏教徒である証として、江戸時代半ばに建てられた

右下：川の神様。川に限らず、集落内の水に関するところを守っている。

わき水を溜めている場所も「カワ」という。集落内に数ヶ所こうした祠がある



「安満の里 春日講」会長の寺田一男さん。手にしているのが、本物のオテンベンシャ。これは納戸神(納戸に祀られた神)の一つで、ほかにお札(木札)、メダイ(メダル)、十字架などがある



平戸島の西海岸と生月島のあいだにある中江ノ島。ここは世界遺産の構成資産の一つ。無人島だが、禁教時代の殉教地であり、聖地となつた。ここに聖水が湧き、「お水かけ」の水を信者が取りに行く「お水取り」が行われている

上：生月島と平戸島をつなぐ生月大橋は1991年に開通。ちなみに平戸島と九州本土（田平）をつなぐ平戸大橋の開通は1977年  
右：春日集落のほほまん中にある小高い丸尾山。丸尾様を祀り、12月5日に祭事が行われる。ここは、キリスト教墓地も発掘されており、かつて十字架が立っていたと考えられている

## 棚田の里のキリストン

かつてはどの家もキリストンだった春日だが、現在はかくれ波強いと  
大きいなる自然は厳しかつた。ゆえに、安満岳をはじめ山を崇め、海の安全を祈り、豊作を願い、祖先を想う——祈りと労働が一体となつた暮らしがあつた。「キリストン」というものの、春日では、仏教も神道もキリスト信仰と同じように大切にし始めた。春日にはいろんな神様がいる。川や沢、池には川の神様、台所には荒神様、神社の大神宮様、漁の神様、屋敷神のお稲荷様、牛神様、棚田の中にあら丸尾様、さらには天照大神……。

「みんなどれも粗末にしてはいけないと思つてゐるんですよ」そう話すのは市の植野さんだ。これが代々、自然とともにあつたこの地域の「思い」なのだと感じた。

「生月島へ、日に3回、たまには4回渡つて売つてたと。船押しが船で、夫婦2人で両脇で漕いだねえ。瀬戸場を超えて。米も焚きものも売りよつた。炭や薪よ。命がけたい。今日は良かねえと思っていても途中で突風が吹いてきたり、海が荒れたり。往復で2時間半や3時間かかりよつた。船を漕いでも漕いでも、嵐が来たら港じゃなかどころに着いたり。ここは瀬戸で潮荒か。波強いと」

大いなる自然は厳しかつた。ゆえに、安満岳をはじめ山を崇め、海の安全を祈り、豊作を願い、祖先を想う——祈りと労働が一体となつた暮らしがあつた。「キリストン」というものの、春日では、仏教も神道もキリスト信仰と同じように大切にし始めた。春日にはいろんな神様がいる。川や沢、池には川の神様、台所には荒神様、神社の大神宮様、漁の神様、屋敷神のお稲荷様、牛神様、棚田の中にあら丸尾様、さらには天照大神……。

「じいさんは、地区で病人がいたらオテンベンシャ（納戸神の一つで、祓いの道具）を持つてお参りに行つていましたよ。その家の人に頼まれて、そこへ出掛けっていたな。横たわっている人のところでお祓いして。自分はついていつて見つけていました。自分の記憶では昭和44年頃まではやつていましたね」

一男さんは若いとき、生月島に出て漁業に就いたため、詳しいことはわからぬのだといふ。お水かけの役は世襲制だつたというが、一男さんの父が他地域からの養子であつたこともあり、信仰は継承されなかつた。

「じいさんは、オラシヨ（祈りの唄）を正月3日の日に、中江ノ島（殉教の聖地）を見ながら唱えていたんですよ。中江ノ島が見える山の上まで上がつて、延々とオラシヨを唱えていましたね。1時間以上です。自分も

小学校に上がつたくらいのときでしたら、連れていかれてね。朝早く出て行くんですが、寒いでしょう。早く終わらないかとずっと寒風の中待つっていた。今、思うと、これを見せておこうと思つたとでしようね」

春日にはかくれキリストン信仰の行事を行う組、「キリストン講」が2つあった。一つは、平成元年生まれ、昭和53（1978）年に生まれ、昭和24年生（1949年）に68歳で亡くなつた寺田作太郎さんだ。その孫、寺田一男さん（昭和24年生）に話を聞いた。

「じいさんは、地区で病人が出たらオテンベンシャ（納戸神の一つで、祓いの道具）を持つてお参りに行つていましたよ。その家の人に頼まれて、そこへ出掛けていたな。横たわっている人のところでお祓いして。自分はついていつて見つけていました。自分の記憶では昭和44年頃まではやつていましたね」

一男さんは若いとき、生月島に出て漁業に就いたため、詳しいことはわからぬのだといふ。お水かけの役は世襲制だつたというが、一男さんの父が他地域からの養子であつたこともあり、信仰は継承されなかつた。

「じいさんは、オラシヨ（祈りの唄）を正月3日の日に、中江ノ島（殉教の聖地）を見ながら唱えていたんですよ。中江ノ島が見える山の上まで上がつて、延々とオラシヨを唱えていましたね。1時間以上です。自分も

かつてはどの家もキリストンだった春日だが、現在はかくれ波強いと  
大きいなる自然は厳しかつた。ゆえに、安満岳をはじめ山を崇め、海の安全を祈り、豊作を願い、祖先を想う——祈りと労働が一体となつた暮らしがあつた。「キリストン」というものの、春日では、仏教も神道もキリスト信仰と同じように大切にし始めた。春日にはいろんな神様がいる。川や沢、池には川の神様、台所には荒神様、神社の大神宮様、漁の神様、屋敷神のお稲荷様、牛神様、棚田の中にあら丸尾様、さらには天照大神……。

「みんなどれも粗末にしてはいけないと思つてゐるんですよ」そう話すのは市の植野さんだ。これが代々、自然とともにあつたこの地域の「思い」なのだと感じた。

「みんなどれも粗末にしてはいけないと思つてゐるんですよ」そう話すのは市の植野さんだ。これが代々、自然とともにあつたこの地域の「思い」なのだと感じた。

「じいさんは、オラシヨ（祈りの唄）を正月3日の日に、中江ノ島（殉教の聖地）を見ながら唱えていたんですよ。中江ノ島が見える山の上まで上がつて、延々とオラシヨを唱えていましたね。1時間以上です。自分も

世界遺産になれば、海外からの来訪者も増えるにちがいない。ここは、「潜伏キリストンが密かに信仰を継承しながら生活を続



空き家を利用した交流拠点が、2018年1月オープン予定。展示のほか、春日の人と話せる場所もあり、春日の棚田米などを販売するという

# 日本の棚田百選 夕日と玄界灘を望む「土谷棚田」

長崎県松浦市福島町土谷



土谷棚田は、長崎県松浦市福島町の西に広がる約15ヘクタールの斜面を明治から昭和初期にかけて開墾し、自然の傾斜に高さ5メートルもの石垣を組み合わせ、約400枚の棚田を形成しており、棚田と夕日、海、点在する島々とのコントラストの雄大で美しい眺めを望むことができます。

平成11年に「日本の棚田百選」に認定されたことを機に、棚田を守り、景観のすばらしさを広く伝えるため、平成15年から「土谷棚田の火祭り」が地元の人たちが中心となり開催されました。棚田の畔に炎を灯すイベントは、当時、全国初の試みということでテレビや新聞等でも紹介され、大きな反響があり、平成24年には「日本夜景遺産（ライトアップ夜景遺産）」にも認定されました。

一時期中断していたものの、再開を望む声が多く、平成24年に復活し、毎年多くの方にご来場いただきており、今年で12回目の開催となりました。

残念ながら、今年は台風18号の影響で、「土谷棚田の火祭り」灯籠3000本の点火・イベント等は中止になりましたが、新たな取り組みとして、9月18日から23日まで、LEDイルミネーション（ペットボタル）6000個を設置し、灯籠の灯とは一味違う幻想的な光景が広がりました。

来年以降も「土谷棚田の火祭り」を開催いたしますので、ぜひ、長崎県松浦市福島町までお越しください。

（松浦市役所 福島支所地域振興課）



2017年は、台風のため燈籠は点等できなかったものの、初の取り組みとして、9月18日から23日まで、LEDイルミネーション（ペットボタル）6000個を設置し、好評を博した。

火祭りホームページ <http://doya-matsuri.jp>